

ご親教「浄土真宗のみ教え」をいただく

【目次】

「浄土真宗のみ教え」についての親教	
ご親教「浄土真宗のみ教え」をいただく	3
ご親教をいただいて	
「浄土真宗のみ教え」をいただいて	15
ご親教に示される意義	
「浄土真宗のみ教え」を味わう	21
「念仏者の生き方」から「浄土真宗のみ教え」へ	
丘山 願海	51
丘山 願海	35
満井 秀城	29
深川 宣暢	21
入澤 崇	15
徳永 一道	13

「浄土真宗のみ教え」についての親教

本年も、皆さまと共に立教開宗記念法要のご勝縁に遇わせていただき  
ました。立教開宗とは親鸞聖人が『教行信証』を著して他力の念仏を  
体系的にお示しになり、浄土真宗のみ教えを確立されたことをいいます。  
この法要をご縁として、私たちに浄土真宗のみ教えが伝わっていること  
をあらためて味わわせていただきましょう。

さて、仏教を説かれたお釈迦さまは、諸行無常や諸法無我という言葉  
葉でこの世界のありのままの真実を明らかにされました。この真実を身  
をもって受け入れることのできない私たちは、日々「苦しみ」を感じて  
生きていますが、その代表的なものが「生老病死」の「四苦」である  
とお釈迦さまは表されました。むさぼり・いかり・おろかさなどの煩惱  
を抱えた私たちは、いのち終わるその瞬間まで、苦しみから逃れること  
はできません。

このように真実をありのままに受け入れられない私たちのことを、親  
鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」と言われました。そして、阿弥陀如来は煩  
悩の闇に沈む私たちをそのままに救い取りたいと願われ、そのお慈悲の  
お心を「南無阿弥陀仏」のお念仏に込めてはたらき続けてくださってい  
ます。ご和讃に「罪業もとよりかたちなし 妄想顛倒のなせるなり」  
「煩惱・菩提体無二」とありますように、人間の分別がはたらき出す前

のありのままの真実に基づく如来のお慈悲ですから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、誰一人として見捨てられることなく、そのままの姿で摂め取ってくださいます。

親鸞聖人は「念仏成仏これ真宗」（『浄土和讃』）、「信は願より生ずれば 念仏成仏自然なり 自然はすなはち報土なり 証大涅槃うたがはず」（『高僧和讃』）とお示しになっています。浄土真宗とは、「われにまかせよ そのまま救う」という「南無阿弥陀仏」に込められた阿弥陀如来のご本願のお心を疑いなく受け入れる信心ただ一つで、「自然の浄土」（『高僧和讃』）でかたちを超えたこの上ないさとりを開いて仏に成るといふみ教えです。

阿弥陀如来に願われないのちと知らされ、その温かなお慈悲に触れる時、大きな安心とともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いに敬い支え合う世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、仏恩報謝の道を歩まれたのが親鸞聖人でした。私たちも聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声  
わたし ほんのう ほとけ  
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいて

この愚身をまかす このままで  
救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり  
少しづつ 執われの心を 離れます  
生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず  
穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い  
日々 精一杯 つとめます

来る2023（令和5）年には親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださったことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきましょう。なお、2018（平成30）年の秋の法要（全国門徒総追悼法要）の親教において述べました「私たちのちかい」は、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会で引き続き唱和していただき、み教えにつながっていくご縁にしていきたいと願っております。

2021（令和3）年4月15日

浄土真宗本願寺派門主 大谷 光淳

※このご親教は、2021（令和3）年4月13日から15日まで

「春の法要」が本山御影堂で営まれ、15日の立教開宗記念法要後に、専如ご門主が述べられました。

本文中、『浄土真宗聖典(註釈版)第二版』(本願寺出版社)に

つきましては、『註釈版聖典』と略記しています。

ご親教「浄土真宗のみ教え」をいただく

ご親教をいただき

徳永  
一道

去る2021（令和3）年4月15日に本山・御影堂ごえいどうで勤修ごんしゅうされた立教りつ開宗きやうかい記念法要きねんほうようにおいて、ご門主が『浄土真宗のみ教え』についての親教しんぎやう」を述べられた。

その骨子は、浄土真宗の教えの根幹が南無阿弥陀仏なもあみだぶつの名号みやうごうにあり、この名号が「生老病死しょうろうびやくし」という四苦しきくのただ中にある私どもの人生の最終さいまつ的な依りどころとなるということであった。

南無阿弥陀仏の名号は阿弥陀如来のご本願、すなわち一切の衆生しゆじやうを救いたいという如来さまの願いのあらわれであり、それを信受しんじゆすることが同時に私どもの救われるすがたでもあるということにほかならない。

既述のように、このご親教において、ご門主がわれわれに伝えようと

された親鸞聖人の教えの根幹は、南無阿弥陀仏の六字の名号にあり、さらにそのはたらきは聖人が明らかにされた法義のエッセンスである「自然法爾ねんぽうに」の四文字につくされるということである。

ご無礼ながら、このことについて蛇足だそくになることを承知の上で、私の理解するところを述べさせていただきたいと思う。

ご親教には親鸞聖人の『高僧和讃こうそうわさん』善導讃ぜんどうの一首の、

信しんは願がんより生しやうずれば

念ねん仏ぶつ成じやう仏ぶつ自然じねんなり

自然じねんはすなはち報ほう土どなり

が引用されている。このご和讃の骨子が「自然法爾」であることは言うまでもないが、ここでは如来のご本願のはたらきそのものを直接に指し示していると言ってもよいであろう。それは、私どもの勝手な思い込みや利己的な計算を超えて、往生浄土という究極のゴールへと向かわしめるはたらきでもあるといえよう。そしてまた、その究極の到達点であるお浄土がまた「自然法爾」の世界であるということになる。親鸞聖人は、この「自然法爾」を阿弥陀如来の救いのはたらきのサイクルとしてお示しくださったことを右記の和讃をもって私どもに伝えんとされたのであ

ろう。

これはまた、ご親教において「浄土真宗のみ教え」としてお示しになったところであると言ってもよいと思われる。すなわち、私どもの称える念仏が「そのまま救う」という如来さまの願いであり、同時にそのよび声であるということでもある。その如来さまの願い、すなわちご本願におまかせすることこそが、私どもの人生の究極の依りどころとなるのではなからうか。親鸞聖人はそれをもって他力の信心の内容とされたのである。

まことに私どもの人生には予断が許されない。今や世界中に蔓延してしまつたこの新型コロナウイルスの災厄を、いったい誰が予測し得たで

あろうか。目にもすることもできないほど微小なウイルスが、まさに世界中を混乱の極みに陥れたおとしと言えるが、そのただ中であって、自らの人生にいかに対処していくべきかは、私ども自身の問題である。

私どもは幸いにして弥陀の本願の教えに遇あうことができ、それをもって、自らの人生の礎いしずえとすることができると縁に恵まれている。それによって現代の人間の問題、世界人類の行く末についてまで思いをいたすこともまた、私ども念仏者の責務ではないかと思われるのである。

「浄土真宗のみ教え」をいただいて

入澤

崇